

【野村委員長】 続いての議題について、ご説明をお願いいたします。

【小山法人担当課長】 それでは、ご説明させていただきます。

教育委員会事務局が所管いたします外郭団体でございます公益財団法人大阪国際平和センターの令和2年度経営評価（財務運営の実績）につきまして、大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例第7条第4項の規定に基づき、諮問させていただきます。

内容につきましては、所管所属からご説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【野村委員長】 それでは、大阪国際平和センターの経営評価について、所管所属からご説明をよろしくお願ひします。

【教育委員会事務局】 教育委員会事務局生涯学習担当課長の大多でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、公益財団法人大阪国際平和センターの令和2年度経営計画についてご説明いたします。

資料をご覧ください、まず、中期目標の箇所をご覧ください。中期目標期間を令和2年4月から令和7年3月までの5年間としており、大阪市内に居住する小中学生をはじめとする多くの市民に、「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」ような展示を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会が提供されている状況となることを目標としております。

次に、その下の段、財務運営の実績に関する評価の年度計画達成状況の項目についてご説明いたします。

まず、指標のⅠ、平和寄附金収入の確保をご覧ください。財団の自主財源確保のため、企画事業等の際に参加者の方に広く寄附を呼びかけております。令和2年度の目標値は、新型コロナウイルス感染症の影響による企画事業等の規模縮小などを考慮し、65万5,000円としていましたが、12月のレッドステージなどの影響より、予定していた企画事業が中止となったため、目標には少し及ばず61万9,000円となりました。

次に、指標のⅡ、入館者1人当たりの事業費の抑制の欄をご覧ください。財団の運営コスト削減の努力を客観的に示すものですが、運営補助金を入場者数で割ったものでございます。令和2年度の目標値は、新型コロナウイルス感染症の影響による入館者数の減少を考慮し、3,889円としていたのですが、想定よりも多くの来館者があったため、目標を達成し、3,198円となっております。

次に、外郭団体の自己評価についてご説明いたします。

当該事業年度の達成状況につきましては、指標Ⅰにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による平和祈念事業の中止や、個人の篤志家から大口寄附がなかったことから、目標額を若干下回ることとなりました。指標Ⅱにつきましては、運営コストの抑制と入場者数の目標達成により、1人当たりの事業費の目標をクリアすることができたとしております。

最終目標達成に向けた課題及び次年度以降の取組としては、寄附金収入確保のため、企画事業や特別展において平和寄附金の寄附を呼びかけていき、寄附金が税の優遇措置となることもPRしていくこととしております。

次に、専門家の評価についてご説明いたします。臨時休館やイベント中止、入館者制限により、平和寄附金収入が目標値を下回ることはやむを得ないが、広く寄附を呼びかけ、収入を確保してもらいたいとの評価でございました。

次に、本市の審査についてでございます。審査結果としましては、コロナ感染症の影響により、企画事業が一部中止を余儀なくされ、また、大口の寄附金がなかったことなど、目標どおり寄附金額を集められなかったことは致し方ないと思われれます。また、目標を上回る入場者数があり、1人当たりの事業費を抑えることができたため、財団の自己評価は妥当としております。

最後に、本市の総合的な評価といたしましては、財団は修正後の入館者数の目標を達成するとともに、電気料金や展示品点検契約の見直しなどにより経常経費の圧縮に努め、入館者1人当たりの事業費の抑制を行うことができ、寄附金も、目標に僅かに届きませんでした。目標に近い金額を集め、堅実に財務運営に努めたものと評価しております。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

【野村委員長】 ありがとうございます。

それでは、委員の皆様からご意見やご質問などありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

【佐藤委員】 委員の佐藤です。よろしく願いいたします。

来場者がかなり増加されていると思うんですけども、何か施策というか、増加させるような手だてというか、何かされてこうなったんですかね。偶然こうなったという。コロナなので減りそうな気がしたんですけども。

【教育委員会事務局】 入場者数は例年と比べて大幅には減ってはいるんですけども。

【佐藤委員】 減っているんですか。

【教育委員会事務局】 コロナの影響を踏まえ、昨年度途中で中期目標を変更しておりますので、それと比べては若干増えたということでございます。

【佐藤委員】 だから、それほど減らなかったということですね。

【教育委員会事務局】 減ってはおりません。

【佐藤委員】 分かりました。例年どれくらい来られているんですか。

【教育委員会事務局】 令和元年度の実績でございますけれども、約6万6,000人でございます。2年度の実績で言いますと2万8,000ちょっと。当初、今年度の目標は2万3,000ぐらいを予定しておりましたので、その分増えているのかなというような感じになります。

【佐藤委員】 分かりました。

【市口委員】 委員の市口です。

入場者1人当たりの事業費というところで目標達成できていますよと。その要因として、当初目標値設定に当たって見込んでいた入場者数よりかなり多くなった、だから下がりましたよというのは、それはそのとおりにかとは思いますが、事業費としてこれだけのものを見込んでいて、それで結果として、それもある程度効率化等々で抑えることができたとか、そういう何か評価的なものはされていませんか。単純に、目標は1万6,160名で、それに対する令和2年度の目標額、1人当たりの事業費3,889円。それを掛け算したら6,284万なんですね。実際は2万2,483人の入場者で、1人当たりの実績値としては3,198円と。掛け算したら、実際の事業費としては7,190万ぐらいなんですね。当然、入場者数が増えれば事業費も増えるという側面があるので、増えていること自体は問題はないとは思いますが、その辺の、これが適正な増え方になっているのかどうかという、そういう分析とかは特にされてはいないでしょうか。

【教育委員会事務局】 個々の経費の削減に当たっては、例えばなんですけれども、電気料金の見直しで、電気の供給会社が増えてきているということで、見積り合わせによって経営金額を抑え込んだり、経費の削減ということは当然ありましたし、LED化により電気の使用料が減っていることから、この分で200万円ぐらい減っているのかなと。それ以外にも、展示品点検の契約などにつきましては、従来は一括で点検契約していたのを、実績ベースに契約を変更するなどして100万円程度の減というようなことはしているということで聞いております。

【市口委員】 分かりました。

【水上委員】 委員の水上です。よろしくお願いいたします。

指標 I についてお伺いしたいんですけども、寄附金はお相手の意思があることなので、なかなか難しいところがあると思うんですけども、大きい寄附が少なかったというような説明になっているかと思うんですけども、これが通常はどういう形でしていただけるものなのかということについてお伺いしたいんですけども。説明を読んでいくと、イベントや臨時休館、入館者制限があった結果減ったようにも読めるんですけども、ふだんは来られた方が大口で寄附されるのか、それとも、毎年特定の方がされているような状況なのか、その辺り、もしお分かりでしたら教えていただければと思います。

【教育委員会事務局】 基本的には、平和祈念事業開催時に募金箱による寄附で大きなものがあるということでやっております、例年でしたら、特定個人の寄附金ということで、令和元年度だったら22万円程度、それ以前では40万とか70万とかいう数字もあるんですけども、そういう数字があったんですけども、今年度につきましてはそこが完全にゼロであったというようなことになっております。

【水上委員】 今ご説明にあった平和祈念事業というのは、イベントのようなものでしょうか。

【教育委員会事務局】 はい、イベントでございます、昨年度であれば5回ほど予定しておる予定だったんですけども、人数の変更なり、12月6日に、開戦の日ということで祈念イベントを予定しておったんですけども、そこが中止になったりというようなこともございまして、そうなっております。

【水上委員】 ありがとうございます。承知しました。

【野村委員長】 ほかにはご質問、ご意見などありますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 では、質疑応答につきましては以上で終了させていただきます。どうもありがとうございました。

【教育委員会事務局】 ありがとうございます。

【野村委員長】 続いては、答申の取りまとめですけども、付すべきご意見とかはありますでしょうか。よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 では、引き続き、意見なしということでお願いいたします。

【小山法人担当課長】 では、意見なしの方向でまた答申の取りまとめをさせていただきます。

きます。